

小沼廣幸 博士（農学）

- 一般社団法人（非営利）アジア自立支援機構 代表理事
- タイ国率シーナカリンウイロート大学 経済学部客員教授
- 元国際連合食糧農業機関（FAO）事務局長補（A D G）兼
アジア太平洋局長
- 前明治大学特任教授・明治大学アセアンセンター長



略歴

東京都小金井市出身、昭和28年（1953年）5月21日生まれ

明治大学農学部1976年卒業（農芸化学）

筑波大学大学院生命環境科学研究科博士課程前期修了（修士号取得）。

同大学博士課程後期中退。博士（農学）号を筑波大学より取得（2014年）

1977年 国際協力事業団 青年海外協力隊員（畜産）としてシリアで活動

1980年 FAOに入り、畜産のアソシエート・エキスパートとしてイエメンに派遣

1983年 国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）へ異動。ジャララクシ難民キャンプ所長としてソマリアへ派遣され、難民保護・支援プログラムに従事

1985年 FAOに復帰、ガーナのFAOアフリカ地域事務局に勤務

1989年 プロジェクト管理運営官としてFAOローマ本部へ異動

1996年 FAO バングラデシュ事務所長

1999年 バンコクのFAOアジア太平洋地域事務所へ異動、事業部長、政策支援部長及びアジア太平洋副局長（2003-2010）を歴任。

2010年 3月、FAO事務局長補（ASG）兼アジア太平洋局長に就任、2015年7月退官

2016年 4月、明治大学特任教授・アセアンセンター長に就任、2019年3月退職

2018年 6月に一般社団法人（非営利）アジア自立支援機構（GIAPSA）を設立

国連FAOを中心に国連勤務35年（UNHCR勤務を含む）を経て2015年に定年退官。2016年4月より明治大学特任教授・アセアンセンター長として3年間バンコクに駐在し、若い世代の教育活動に力を注ぐ。2018年6月に一般社団法人（非営利）アジア自立支援機構設立。FAOの任期中はアジア太平洋局長として地域のFAOの加盟国46カ国に対する農業政策のアドバイス、国際会議の開催、プロジェクトベース（常時約400）の技術援助の実施・運営の統括などを主な仕事とした。又、約180名の職員に対し、農業政策、食料安全保、栄養、村開発、畜産、林業、漁業、その他関連分野におけるFAOの技術協力活動の指揮・管理を行った。